

DVRモデルを活用したポットカーネーション計画生産実証

花き全国技術実証2023協議会【担当機関：千葉県農林総合研究センター】

背景とねらい

- ・ポットカーネーションは母の日の安定した需要が見込める一方で、母の日以外の需要が極端に少なく、目標とする出荷日に向けた綿密な開花調節が求められる。
- ・開花調節は生産者の経験と勘に頼った気温管理によって行われ、変動する母の日に合わせた調節に苦慮している。
- ・発達速度（DVR）モデルを基とした開花調節技術を開発するためのデータ収集と、この技術の生産現場での適応性を検証した。

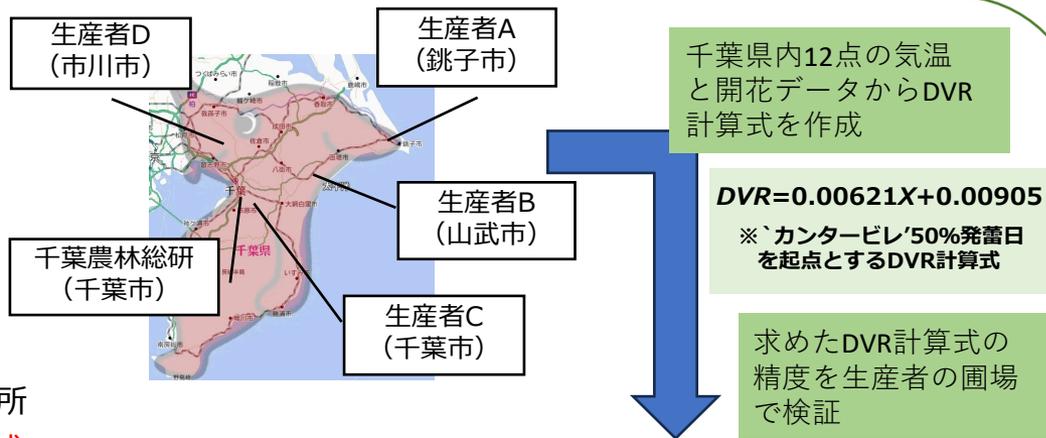
実証技術の概要

《方法》

千葉県農林総合研究センター内の圃場等12点の日平均気温と出荷目安の3輪開花日のデータを収集し、DVR計算式を作成した。

《結果》

作成したDVR計算式を千葉県内の生産者2か所の気温と開花データに当てはめたとこ、**計算式によって示された開花日と実際の開花日（実測日）との差は1日～2日であり、計算式の精度は高いと考えられた。**



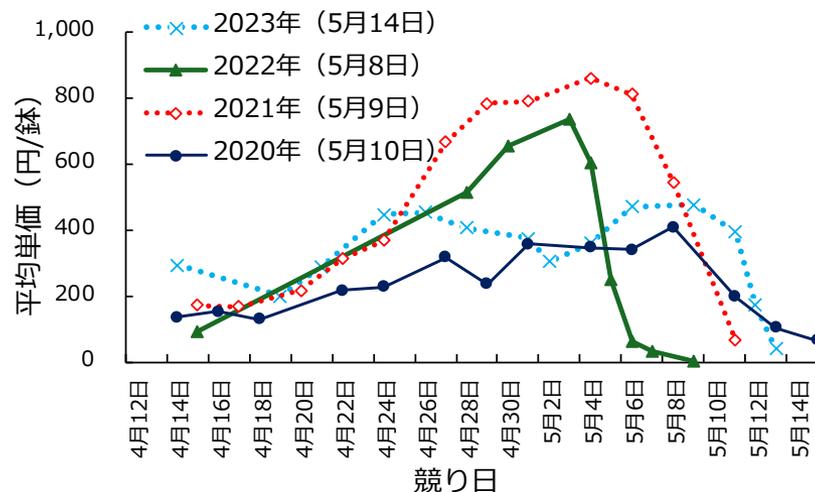
‘カンタービレ’50%発蕾日を起点としたDVR計算式の現地適応

調査地点	起点日 (50%発蕾日)	3輪開花 実測日	予測日 ^z -実測日 (日)
生産者・千葉市	3月16日	5月6日	+2
生産者・市川市	3月7日	4月27日	+1

^z DVRの積算が1.0となった日

実証技術の経済性

- ・ポットカーネーションの単価は母の日が近くに
に従い上昇し、母の日以降急激に低下する。
- ・2020年～2023年にかけては母の日前後で
平均単価が85%以上も低下し、母の日以降
に出荷した生産物の利益は殆ど見込めない。
- ・DVRモデルを基とした開花調節技術が開発
されることで、需要に対する安定供給が可能
となり、生産者の所得向上にもつながる。



大田市場におけるポットカーネーション平均単価の推移

※ 各年の括弧内は母の日の日付を示す

期待される効果

- ・DVRモデルを基とした開花調節技術が開発
されることで、生産者は経験や勘に頼らず
とも安定した出荷が可能になる。
- ・気温の実測値をDVR計算式に当てはめた結果
に基づいて温室の環境制御を行うにはは煩雑
な作業が必要になることが想定されるため、
ICT等を活用したツールの開発が求められる。



出荷目標日までに必要な
気温情報がスマホに届く
(イメージ)

